

健康保険

経常収支で9億9,003万円の大幅な赤字予算となりました

● 予算編成の背景

健康保険組合連合会が公表した全国の健保組合の令和3年度の決算集計（速報値）によりまずと、全国の5割超の組合が赤字、赤字総額は825億円に上ると推計されています。赤字の背景には、高齢化や医療技術の高度化による医療費の伸びに加え、コロナ禍で受診控えが起こった令和2年度の反動による医療費の増加などがあります。また、人口のボリューム層である団塊の世代が75歳以上となり後期高齢者へ移行しはじめたことで、健保組合が負担する後期高齢者支援金が膨らみ、健保組合の財政悪化に拍車をかけることは確実視されています。

日本は今後、さらなる高齢化とともに、現役世代の減少が加速していきます。こうした人口構造の変化に備え、制度の持続可能性を高める観点から、現役世代の負担に過度に依拠する現行の仕組みから、負担能力に応じてすべての世代で公平に負担する「全世代型社会保障」への転換が急がれます。

● 予算の概要

当健保組合の令和5年度予算は、総額66億

7,241万円、実質的な収支状況を見る経常収支で9億9,003万円の赤字となりました。前年度予算に比べ赤字額は4億1,714万円も増加しています。財政悪化の要因は、高齢者医療制度への納付金の急増（前年度比6億2,436万円増）と、皆さまの医療費にあてられる保険給付費の増加（同1億3,612万円増）です。健保組合の主な収入源である保険料の増加（同3億4,355万円増）を見込んだものの、支出が急増したことで、収支均衡に必要な保険料率は約11.2%に上り、大幅な収入不足が生じる非常に厳しい状況となっています。

収入の不足分は積立金から11億3,000万円を繰り入れて補填し、令和5年度は保険料率9.6%を据え置くことといたしました。

令和5年度はほとんどの医療機関でマイナ保険証対応になるなど、医療のデジタル化による医療サービスの効率化や質の向上が図られます。当健保組合におきましてもデータを活用した効率的かつ効果的な保健事業をさらに推進してまいります。皆さまにおかれましては、当健保組合が実施する各種健診をご活用いただくとともに、日々の健康管理に留意され、医療費節減にご協力いただきますようお願いいたします。

介護保険

健保組合では、40～64歳の被保険者（介護保険第2号被保険者）から介護保険料を国に代わって徴収し、国に納付しております。令和5年度は、介護納付金6億717万円に対し、介護保険収入は5億5,363万円となる見込みです。収入の不足分は繰入金8,000万円を補填します。

収入

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護保険収入	553,632	98,687
繰入金	80,000	14,260
雑収入	3	—
合計	633,635	112,947

支出

科目	予算額(千円)	介護保険第2号被保険者1人当たり額(円)
介護納付金	607,165	108,229
介護保険料還付金	1,000	178
積立金	1	—
予備費	25,469	4,540
合計	633,635	112,947

令和5年度
収入支出予算総額
66億7,240万7千円

